

## 同窓会メモリアル ～思い出のエピソード&50周年に寄せて～



母校の創立50周年を、すべての同窓会員とともに、心よりお祝いをいたします。本校の同窓会は、通常会員(卒業生等)と特別会員(教職員等)で構成されていて、この50年で1万5千人を超えました。学校に残されている過去の卒業アルバムに、私たち同窓会員が在校時に築きあげてきた歴史と記憶をたどることができます。現在、京山中学校は学業だけでなく、スポーツなど多方面において高く評価されていて、「京山ブランド」を確立させてきています。2023年度の全国中学駅伝での男女アベック優勝、2025年度まで女子は全国3連覇中など、輝かしい成果を出しています。本校は、創立30周年を契機に、同窓会組織の強化・充実をはかり、卒業式の前日には同窓会入会式(現説明会)を行うとともに、同窓会会員証を授与してきました。公立の中学校としては、全国的にみても希な取組で、いかに本校が絆を大事にしているかが表れています。私たちは、これからも本校でつながった絆を大切に、次の100周年に向けて、母校とともに、さらなる飛躍を目指していきます。

同窓会長 池田 満之(1期生)

同窓会のメモリアルについては、創立30周年の時に、30年に至るまでの内容を詳しく掲載したので、ここでは主にその後、創立30周年イベントから創立50周年(2025年、令和7年)までの内容をメインに、同窓会員から寄せられた情報をもとにダイジェスト版で掲載します。同窓会員からはより多くの情報を提供いただきましたが、ホームページ上での掲載は控えた方がよいものは、省かせてもらっています(情報提供者の氏名も)。ご了承下さい。

昭和50年(1975年)3月19日、第1回卒業式が挙行されました(右の写真)。1期生は、校舎の建設工事が遅れて、結局、現在の校舎には入れず、岡北中学校の校舎を間借りしたまま卒業しました。このため、卒業式も新しい校舎ではできませんでした。今の校舎への記憶は、卒業の前に、こういう校舎ができましたと、見学させてもらった時のものですが、当時では珍しい地下駐輪場があったりと、真新しい白色の塗装が輝いていた新校舎をうらやましく思いましたが、50年経って、黒ずんで傷みが目立つ今の校舎に、この50年の歳月の重みを感じる一方で、そんな校舎を大事に使ってくれている在校生ならびに教職員の皆さんに深く感謝します。ありがとうございます。

(1期生)



1985年、大雨により京山中学校正門前の今はない水道道が膝くらいまで浸水しました(右の写真)。隣は決して綺麗とは言えない水路がありましたが、あの水に足を入れて帰るのが凄くイヤでしたが、意外と女子の方が躊躇せずに行きましたね。水道道と言えば、クラブ活動でも、水道道はよく走りました。当時は辛かったですが、今は良い思い出です。

(12期生)



平成13年、第1回総合文化発表会SKF開催(左上の写真)。パネルディスカッション「人・心・地域 ～私たちにできること～」では、岡山市長などをパネリストに、1期生の池田満之(現同窓会長)がコーディネーターを務めました。また、平成14年、第2回総合文化発表会SKF開催(右上の写真)。9期生が「私の歩んだ道」と題して講演をしました。



平成15年11月7～8日、創立30周年記念式典と第3回総合文化発表会SKFを開催。7日は岡山武道館で、8日は本校にて開催。8日は柔剣道場を会場に同窓会ブースを設置し、多数の卒業生の皆さんにも来場してもらいました。



平成16年2月25日、30周年記念推進期成会(左の写真)。数年間に渡って取り組んできた期成会が、その役割を終えて解散するにあたり、推進員での記念撮影をしました。



平成16年10月10日、創立30周年で久しぶりに1期生も関わりつながったことが刺激となり、1期生全体での同窓会が開催できました。30年ぶりに会う人が多かったですが、皆さん面影が残っていて、懐かしい時間を共有しました。



**<パネルディスカッション>**

理想の京山に近づくためには、いま、私たちに何ができるか？

<p>予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引越しが多く、地域のつながりが少なくなっている。</li> <li>・犯罪が多い。</li> </ul>	➡	<p>理想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい</li> <li>・活気がある</li> <li>・親しみやすい</li> <li>・住みやすい</li> </ul>
--	---	--



平成17年の第5回総合文化発表会SKFには、卒業生や小学生や地域の人も参加したワークショップが行われたり、パネルディスカッションにも同窓会長などがパネリストになるなど、地域の未来に向けて、開かれた学校づくりが進んでいます。



平成19～20年、京山中学校を核に京山地区でも緑のカーテンづくりが活発に行われました。SKFも同窓会なども加わって実行委員会(左の写真)がもたれるなど、卒業生もSKFに深く関わりました。また、学校執行部と同窓会との対話の場(上の写真)も適宜もたれるなど、学校の活動に同窓会が貢献する機会も増えました。

現在、1年生のときに担任して下さった先生が校長をされている岡大附属中学校で非常勤の教員をしています。35年の時を経て不思議なご縁です。(19期生)

京山中学校では、エンテルを走って体を鍛えた思い出があります。走っている時に、地域の方がよく挨拶をしてくれました。これからも地域とよい関係を築きながら発展していける学校であることを願っています。(28期生)

総合学習で、友達と一緒に国際理解について、フィールドワークも取り入れながら学びを深め、ステージ発表をすることができたのは、非常に良い経験で、原体験の一つとなりました。自分の時代の京山と言えばSKFや遠方凝視(帰りの会で全校生徒一斉に外を眺めるという時間)などのオリジナル文化！時代が変わっても、京山の良さを活かして、これからも頑張りたいと思います！(29期生)



30周年記念事業から20年が経過している現実に驚いたり、懐かしかったりと。様々な思いがありました。娘と共に地域で暮らしながら、活動している楽しさが生きがいとなっています。(5期生)

左の写真は、中3の弁論大会で学年1位になった時の発表の様子です。その後県大会で山陽新聞社長賞を受賞しました(平成19年)。マイクを通して堂々としゃべることができたのも放送部でアナウンスをしていたおかげだと思いますが、それは今、プラネタリウムで星空解説をする仕事にもつながっています。ザ・文系だったのに今は科学館、未来は分からないものです。津島小→京中→操山→岡大→サイピア…京山中学校100周年までこの京山学区で歩み続けます！(34期生)

在校時は、勉強や部活動で過ごした3年間でした。その経験は卒業して15年以上経った今でも糧になっています。特に科学部の活動では地域に出る機会もありました。地域の水質や生き物の生態について学ぶことができました。母校の益々の発展をお祈りしています。(33期生)



左の写真は、平成21年1月3日に開催した3期生の同窓会での記念写真です。1期生の同窓会同様に、卒業して30年を経ての同窓会なので、子どもがちょうど中学生くらいの同窓会員も多く、子育てに関する良い情報交換の場にもなります。

下の写真は、平成23年3月16日、第37回卒業式での来賓記念撮影。臨席された岡山市の副市長(当時)は、式典での挨拶で、2ヶ月前にあった中学校の同窓会の話为例に、「中学の時の友だちはありがたいと思いました。なぜなら15歳の時の自分がかももとの自分だから、中学の時の友だちに会うことで、ももとの自分を取り戻すことができるからです。大人になって、どうしていいかわからなくなった時は、中学の時の友だちに会って下さい。本当の自分を取り戻して下さい。縁はずっと続きます。友だちを大切にして下さい」と話されました。絆を特に大事にしている本校にピッタリのメッセージでした。



私は2011年に京山中学校の学舎を飛び立ち、現在は航海士として大海原を航海しています。帰国すればいつもそこには変わらない母校があります。時々通学路を歩くと世界に羽ばたくことを夢見ていた少年時代を思い出します。京山中学校はESDに関する教育に取り組んでいるため、中学生でありながら広い視野で日本や世界を見れるきっかけとなりました。これからも多くの卒業生が多方面の分野で活躍することを願うとともに母校の発展をお祈り申し上げます。(37期生)

2012年に卒業してからもう13年が経ちました。中学時代の思い出が昨日のことかのように鮮明に覚えています。右の写真は、体育祭の二人三脚の様子です。ペアを組んだ子はとても仲が良く、相性がバッチリだったので、他のクラスを抜くことができました。ペアの子のはちまきがずれて目が見えていませんが。(笑) これからの京山中学校の発展と、地域から愛される学校として、今後とも時代の流れにそった活動を期待しています。(38期生)



平成24年6月22日岡山市の海外姉妹都市・米国サンノゼ市から岡山市国際交流事業で高校生大使が来日、本校が交流訪問先となり、生徒会、部活動、レクなどでおもてなし&情報・意見交換をしました(下の写真)。当時、本校は国境や言語、文化を越えたESD活動を推進していました。平成25年6月17日、本校に岡山県の公立中学校では初の空手道部を設置(顧問は竹島 潤)。地元空手道場や中学校空手道連盟などとの連携が実りました。本校空手道部は10年以上経つ今も、地域道場などが参加する大会で活躍、全国中学生空手道選手権大会でも奮闘しています! 「ESD for SDGs」「学校×公民館」「教師も生徒も地域も学び育つ」「文武両道」「考え、行動」…京山中学校と聞いて想起するキーワードなり! 岡山・日本を、共によりよくしていこう! オ～ン!! 押忍 竹島 潤(旧教職員)



左の写真は、平成26年10月16日、創立40周年記念式典の様子。本校体育館で、第13回総合文化発表会SKF初日に行いました。すべての卒業生、同窓会員を代表して、同窓会長として40周年の祝辞を述べました。池田満之(同窓会長)

中学3年の秋、東京で開催された第65回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会の中央大会に出場しました(2013年11月30日)。全国から集まった素晴らしい出場者と競い合った中、幸運にも決勝に進出し、第2位という大変光栄な結果をいただきました。(40期生)





左の写真は、平成26年8月16日に開催した10期生の同窓会での記念写真です。1期生や3期生の同窓会同様に、卒業して30年を経ての同窓会です。卒業して30年というのは、第37回卒業式で当時の副市長が話されたように、人生の中で中学時代を振り返るのに良い年頃なのかもしれません。

3年の時の体育会(平成27年6月5日、右の写真)での雨の中のフォークダンス。泥沼ダンスでずぶ濡れになりました。後輩たちにも、思い出深く語り継がれていました。(42期生)



平成28年、東日本大震災(地震・津波)・原発事故の三重被害を受けた、福島県双葉郡浪江町から「希望の牧場」吉沢正巳代表をお招きした講演会を初開催しました(左の写真)。同牧場は経済価値ゼロとなった被曝牛を生かし続けながら、命のあり方や持続可能な社会づくりについて投げ掛けています。本校では、「自ら考え、行動する」生き方について、意見交換をしました。竹島 潤(旧教職員)



左の写真は、令和5年1月9日に開催した44期生の同窓会での記念写真です。コロナ等で欠席の44期生もいましたが、7人の先生が来てくださり、すごく盛り上がりました！(44期生)

3年夏、生徒会長としてSKF(今の文化発表会)の準備に奔走し、下校を促す『木星』のメロディーに急かされながら仲間と校門をくぐった夕暮れ。大切な記憶の一つです。今は一個下の生徒会長が先輩として同じ大学にいたりも。ここでの記憶とご縁をこれからも大事にしたいと思う今日この頃です。母も私も京中出身。これからも文武ともに活気のある校風を携え、さらに発展していくことを願っています！(45期生)

生徒会長を務めさせていただいた中学時代からあつという間に大学生に。「お世話になった一個上の生徒会長さん今頃何しているのかなー？」と時々考えていると、僕が2年生に進級したときに、彼がまさかの後輩として同じ大学に入学していました。色々なことに挑戦されていたようです。世間は狭いなあと同時に、「これから一緒に研究するかもしれない！」とウキウキしました。(46期生)

皆、異なる世界に住み、異なる人と話している。それでも、1095日を共にした記憶がなくなることは、きつくない。(46期生)

13代目校長として赴任した京山中での4年間の思い出は尽きない。ESDの視点で文科省研究を2年間受け、1年目はESDの付けたい力を明確にした総合的な学習の時間のカリキュラム開発、2年目は教科等横断的な学習プログラムの作成を行い、全国に発信した。東日本大震災の4月に赴任し、気仙沼・面瀬中との復興支援交流では、生徒が中心となりSKFでバザーを行い、毎年その収益金で交流校が必要な物を送らせていただき、防災・減災の意識向上や復興支援プロセスを体感した。また、宮城・気仙沼市や東京・多摩市の中学校とテレビ会議で生徒間交流を何度も行い、地域を超えての意見交換は学びの視野や柔軟性を広げた。ユネスコスクールとして地域社会に開かれた教育活動が大きく評価され、第5回ESD大賞をいただいた。生徒の活躍は頼もしく、地域の皆様方の温かい応援は大きな励みとなった。これからも故郷岡山を愛し、世界のどの場所で活躍しようとも、持続可能な社会の担い手としてのアイデンティティを抱き、社会貢献に尽力する人財でいてほしいと願っている。徳山順子(旧教職員;第13代校長)

私が赴任した当時の京山中学校には、ゴーヤプロジェクトや総合的な学習の発表会としてのSKFがあり、後のESDやユネスコスクールの取り組みへとつながっていきました。先生方の取り組みも生徒の皆さんの活動も先進的なものであり、多くのことを学ばせてもらいました。ESDの核となる考え方は、「他人の話を鵜呑みにせず、自分で考え、判断し、行動する」ことだと考えていますが、美術科の「創造力:今は存在しないけど、それがあつたら、より多くの人々を幸せにするであろう『物や考え方、仕組み』を創り出すこと」と表裏一体だとも思っています。文武両道を標榜する京山中学校の更なるご活躍を祈念します。廣畑 浩(旧教職員)

右の写真は、左側が平成26年3月14日の40期生同窓会入会式の様子で、右側が令和6年3月11日の50期生同窓会入会式の様子。創立30周年を契機に始まった同窓会入会式(現説明会)。卒業式の前日に体育館に卒業予定者が集まり行っています。絆を大事にする本校ならではの象徴的な取組です。同窓会はこれからも人の絆を大切に、学校と地域とともに歩んでいきます。

